

大阪情報コンピュータ専門学校 授業シラバス (2023年度)

専門分野区分	システム設計	科目名	システム設計Ⅱ					科目コード	T1245A1	
配当期	後期	授業実施形態	通常					単位数	4 単位	
担当教員名	山本 隆之	履修グループ	2B(JN/KN/SN)					授業方法	演習	
実務経験の内容	<p>大手IT企業で、大型ホストコンピュータ/クライアントサーバー/クラウドシステムの販売・設計・構築を担当するシステムエンジニアとして37年間勤務。</p> <p>プログラム開発では、基幹システムの大規模開発プロジェクトにプログラマーとして2年間参画し、ウォーターフォールモデルに基づいたプログラム設計・開発・実装を経験。また、基幹システムの運用管理業務を補完する各種ツールのプログラム設計・開発・実装を多数のお客様で経験。</p> <p>これらの実務経験をもとに、プログラム設計技法の基本に関して実務経験を交えて分かりやすく伝え、学生がプログラム設計を自力で実践できるように指導する。</p>									
学習一般目標	<p>本校では、IPA(情報処理推進機構)が提唱し、企業で人材戦略のために広く活用されているiCD(iコンピテンシディクシヨナリ)を参照し、「企業現場で遂行される実際のタスク(業務)」をベースとしてカリキュラムを構成している。</p> <p>科目「システム設計Ⅰ～Ⅲ」では、アプリケーション開発を実施する設計工程である外部設計～内部設計が実施できる事を目指す。その為に、本科目「システム設計Ⅱ」では、アプリケーション開発の知識を活用し、代表的な手法を使ってウォーターフォール型の設計について一通りのタスクを指導を受けながら出来ることを目指す。</p>									
授業の概要および学習上の助言	<p>設計工程を上流から学習に取り組み、各工程で実施する作業、成果物について一通り学習する。</p> <p>企業で求められるシステム作りにおいて、要望をどのように組み込むか？(要件定義)、ユーザーの意見をどのように反映するか？(外部設計)、開発者の立場で定義するか？(内部設計)について実践的な実習を行う。手法を使い独力でできるように積極的に知識の習得に取り組んで欲しい。</p>									
教科書および参考書	<p>参考書:「IT戦略とマネジメント」(第4部)</p> <p>参考書: 効果的プログラム開発技法 第5版 國友 義久著(近代科学社)</p> <p>参考書: ニュースペックテキスト 基本情報技術者 (TAC出版)</p> <p>別途参考資料としてプリントを配布します。</p>									
履修に必要な予備知識や技能	<p>講義受講における前提として必須の知識はありませんが、予備知識として以下の予習を推奨します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ウォーターフォールモデル型開発およびプログラム設計・テストに関する基本的な知識</li> <li>・特に2年生前期に開講された「システム設計Ⅰ」の講義で学習した知識</li> </ul>									
使用機器	Windows/パソコン。個人所有のパソコンにもMicrosoft Officeやastah professionalをインストールすることができる。詳しくは授業内で説明を行う。									
使用ソフト	Microsoft Office、astah professional									
学習到達目標	学部DP(番号表記)	学生が到達すべき行動目標								
	1/2	上流工程である要件定義、外部設計のドキュメントを読むことができる								
	1/2	基本的なサブシステムの機能分割の作成ができる。								
	1/2	基本的なデータ設計(正規化、ER図等)の作成ができる。 基本的なインターフェース設計(画面等)の作成ができる。								
	1/2	基本的なテスト仕様(結合テストを含む)作成および実施ができる								
	授業での演習や予習・復習など、積極的に授業に取り組むことができる。									
達成度評価	評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計	
	学部DP	1.知識・理解	0	0	40	0	0	0	0	40
		2.思考・判断	0	0	30	0	0	0	0	30
		3.態度	0	0	0	0	0	0	0	0
		4.技能・表現	0	0	0	0	0	0	0	0

	5.関心・意欲	0	0	0	0	0	0	30	30
	総合評価割合	0	0	70	0	0	0	30	100
評価の要点									
評価方法	評価の実施方法と注意点								
試験									
小テスト	適宜、小テストを実施する。※達成度の評価は”レポート”の評価に反映する。								
レポート	授業中に出题する実習課題の提出物(各種仕様書・設計書)から理解度を評価する。 授業中に出题する実習課題の提出物(各種仕様書・設計書)の完成度を評価する。								
成果発表(口頭・実技)									
作品									
ポートフォリオ									
その他	授業への出席や授業態度等を含め総合的に判断する								

### 授業明細表

授業回数	学習内容	授業の運営方法	学習課題(予習・復習)
第1回	科目オリエンテーション ウォーターフォールモデルの代表的な開発フェーズを解する。前提となる代表的な業務を研究し、上流工程の仕様を理解する。	講義・演習	
第2回	ウォーターフォールモデルの代表的な開発フェーズを解する。前提となる代表的な業務を研究し、上流工程の仕様を理解する。(つづき)	講義・演習	
第3回	プロジェクト管理1:設計作業の代表的な作業を理解する。 基本的なシステム開発の管理ができるようになる。 (WBS、要員計画、マスタースケジュール、課題管理、作業管理(報告)等)	講義・演習	
第4回	業務概要、業務仕様理解 (講義) 業務内容/業務用語の概要、業務フロー図の書き方 (演習) 演習用の業務説明資料から、業務フロー図を作成します。	講義・演習	
第5回	システム仕様理解 (講義) システム仕様の概要、システム構成図/システムフロー図の書き方 (演習) 演習用のシステム実現機能の情報から、システム構成図とシステムフロー図を作成します。	講義・演習	
第6回	機能設計1 (講義) 機能設計の概要、DFDの書き方 (演習) 演習用の業務フロー図、システム構成図、システムフロー図から、DFD(概略、詳細)を作成します。	講義・演習	
第7回	機能設計2 (講義) HIPO/サブシステム階層図の書き方 (演習) 演習用のDFD(概略、詳細)から、HIPO(概略、詳細)、サブシステム階層図(概略、詳細)を作成します。	講義・演習	

第8回	<p>入出力設計1  (講義) 画面設計の概要、画面設計書の書き方  (演習) 演習用のDFD(概略、詳細)、HIPO(概略、詳細)、サブシステム階層図(概略、詳細)から、画面レイアウト図(概略、詳細)画面遷移図(概略、詳細)を作成します。</p>	講義・演習	
第9回	<p>データ設計1  (講義) データ設計の概要、正規化の方法、ER図の書き方  (演習) 演習用のDFD(概略、詳細)、HIPO(概略、詳細)、サブシステム階層図(概略、詳細)から、正規化、ER図(概念、論理、物理)の作成をしす。</p>	講義・演習	
第10回	<p>データ設計2  (講義) コード設計/CRUD図/状態遷移図の書き方  (演習) 演習用のDFD(概略、詳細)、HIPO(概略、詳細)、サブシステム階層図(概略、詳細)からコード設計、CRUD図、状態遷移図を作成します。</p>	講義・演習	
第11回	<p>テスト設計1  (講義) テスト設計のポイント、テスト設計書の書き方  (演習) 演習用の画面レイアウト図(概略、詳細)画面遷移図(概略、詳細) からディスカッションテーブル、テスト仕様書を作成します。</p>	講義・演習	
第12回	<p>プロジェクト管理2  (講義) プロジェクト評価のポイント、プロジェクト報告の書き方  (演習) システム開発演習 I の成果物を活用し、サービスインくらいテリアを作成します。</p>	講義・演習	
第13回	<p>システム設計IIの知識整理  (講義) システム設計IIまでの講義と、システム開発演習 I の経験から、習得したスキルについて振り返りを行う。  (演習) 演習用の課題や、システム開発演習 I の作成物から、スキル評価、スキル活用事例を作成します。</p>	講義・演習	
第14回	課題解決型授業1	遠隔授業 実施時期:5期	別途提示
第15回	課題解決型授業2	遠隔授業 実施時期:7期	別途提示